

熊谷地方気象台のホームページへようこそ。

熊谷地方気象台長の 松浦和幸(まつうら かずゆき)です。

熊谷地方気象台は、明治 29(1896)年 12 月 1 日に埼玉県熊谷測候所として気象観測の業務を開始しました。

その後、昭和 14 年(1939 年)に国に移管され、昭和 32 年(1957 年)には測候所から気象台へ改称されましたが、120 年以上にわたって場所を移転することなく同一の場所で観測や予報など続けています。



熊谷地方気象台が担当する埼玉県は、関東平野の西部に位置し、1 都 6 県と隣接する内陸県です。地勢は、西部の山地と東部の平地に大別され、西部は 2,000m 超の秩父山地、東部は平野部を荒川・利根川などの河川が流れており、古くから水運、陸運の要衝として栄えてきたところです。

埼玉県の気候の特徴としては、冬は北西の季節風が強く、乾いた晴天の日が多いことです。また、夏は日中かなりの高温になり、平成 19(2007)年 8 月 16 日には熊谷で 40.9℃の最高気温を記録しています。夏季を中心に雷が発生し、ひょうや突風を伴うこともあります。

埼玉県内の災害としては、古くは昭和 22 年のカスリーン台風による大雨により、利根川や荒川などが決壊し、県東部を中心に大きな被害が発生しています。

近年は多くの犠牲者を出すような災害は発生しておりませんが、埼玉県内には利根川、荒川などの大きな河川を含めて多くの河川が流れ、洪水のリスクがあります。また、県西部の山地では土砂災害の発生も懸念されます。

熊谷地方気象台は、埼玉県や県内の市町村、関係機関と連携しつつ、埼玉県民約 730 万人の安心・安全を確保するための的確な情報を発信を行うと共に、地域に根ざしたきめ細やかな取り組みを進めて参ります。

今後ともよろしく願いいたします。

平成 30 年 5 月 熊谷地方気象台長 松浦 和幸